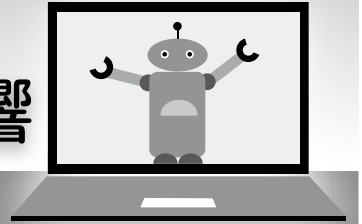


事例 1

RPA 導入で担当者の作業時間が 1日からわずか10分に短縮 周囲にも余裕が生まれ好影響



スペロセイキ

粉体や石炭・石灰石の輸送、高品質なバルブの製造を行うスペロセイキ(北九州市小倉南区)は、各システムの見直しや働き方改革を進める中でRPAテクノロジーのRPAツール「BizRobo!」を知り、2019年に導入した。最初に活用したのは請求書関連の業務。社員が1日かかっていた業務の作業時間がわずか10分になり、担当者からは「ものすごく楽になった」という声があがる。今後は営業部門、技術部門などさまざまな部署への導入を進めていく。さらに、コロナ対策で進むリモートワークやIT活用と掛け合わせることでロボットの可能性をさらに広げていく方針だ。

写真1 本社工場



写真2 スペロセイキが製作した陸上設備(シップローダー/粉体を船舶に積み込む設備)



写真3 セメント船荷役設備



社長自ら導入を検討 働き方改革の解決策に

スペロセイキ(写真1)は、現在主に3つの事業を柱としている。1つは、国内No.1の実績を誇る、ばらセメントなどの粉体輸送の技術。粉体輸送のトータルエンジニアリングから製造までを行い、専用船の設備一式の設計・製造も担う(写真2、写真3)。2つ目は石炭、石灰石輸送の技術。2010年には業界でも数少ないセルフアンローダー(石炭専用輸送船の荷役設備一式)を装備した、固形物の輸

会社概要

会社名：スペロセイキ株式会社
所在地：〒803-0185
北九州市小倉南区石原町189番地
設立：1973年
従業員数：67名
事業内容：粉体輸送設備の設計・製造、石炭専用輸送船の荷役設備一式(セルフアンローダー)の設計・製造、バルブの設計・製造など



写真4 粉体輸送のコンベアの製作



送専用船のシステムを開発した。粉体輸送で培った技術(写真4)と掛け合わせることで、高度化する流体輸送のニーズに的確に応え続けている。3つ目が、創業以来続くバルブの製造。「バルブにも配管と同様の耐久性を」の思想のもと、信頼性の高い製品を追求している。

同社がRPA ツールの導入を検討したのは2019年4月。取引先からRPA テクノロジーズが提供する「BizRobo!」を紹介されたことがきっかけだ。

同社の橋本圭史郎代表取締役社長(写真5)は、当時について「働き方改革を進める中で、煩雑で膨大な事務作業を人力で行う状況を改善したいと考えていた」と話す。そんな折に「BizRobo!」のデモンストレーションを見て、その潜在能力の高さに驚いたという。「『こんな使い方ができそう』というイメージがすぐにいくつも湧いて、これだけの効率化が年間100万円ほどの費用でできるのであれば、費用対効果は高いと感じました」(橋本社長)。

その後、すぐに「BizRobo!」の導入を決定。RPA テクノロジーズがサンプルとして用意した、請求書を処理するロボットを自社向けに改良し、すぐに社内での活用を開始した。

導入に当たっては社長自身が意欲的に進めるのみでなく、対象業務を担当している事務職員からの声をしっかり聞くようにした。最初に用意されたサンプルの評判が良く、社員が導入のイメージをつかむことができたため、社内でもスムーズに受け入れられたという。橋本社長は「働き方改革を進めなければならない一方で、1人ひとりの作業量はなかなか減らすことができず、社員自身も

写真5 橋本 圭史郎 代表取締役社長



効率化に苦慮していたのではないか。そのため、今回の導入を解決策の1つとして受け取ってもらえたのだと思います」と話す。

導入がスムーズに進んだ背景には、同社のIT化への意識の高さも貢献している。同社には過去に生産管理ソフトを導入したことで社内の効率化が進み、トラブルやミスが減少した成功体験があった。新たなシステムの導入は、実際に使用しなければ操作感の理解が難しく、費用コストもかかるため躊躇する場合も少なくないが、同社では「まずは使ってみて、うまくいかなければやめる」という積極的な考え方を基本方針にしている。

1日かかっていた作業がRPA導入で10分に単純だが時間のかかる作業から従業員を解放

最初に「BizRobo!」を導入したのは、数多ある取引先企業から届く請求書の内訳を得意先別・ジョブ番号別に振り分けていく作業だ(写真6)。

RPA 導入前は資材部門の担当者がすべての確認・振り分けを手入力で対応。「①資材部が請求書

写真6 受領請求書の振り分け作業にRPAを活用

